

## 第6回建設産業戦略的広報推進協議会 議事概要

日時：平成26年10月23日（木）15：30～17：30

場所：（一財）建設業振興基金 3階会議室

○ 顧問、アドバイザー及び委員より、平成26年度事業進捗状況等について、以下のような発言があった。

### 1. 「子ども霞が関見学デー」実施報告及び建設産業担い手確保・育成に資する広報の拡充について

（事務局より、資料1、資料2について説明後、自由討議を実施）

- ・当協議会に関する取り組みが、「建設現場へGO！」のアクセス数を見てもわかるように目に見えて伸びてきており、広報活動として効果があったことが分かる。土木学会のfacebookでもシェアしてくれる件数が増えてきているので、今後も発信してくれると良い。
- ・続々と情報を発信しているのが良いと考えている。女性の活躍に関する記事についても、積極的に掲載してもらいアピールできたのが、女性の活躍を応援する良いきっかけになっている。
- ・来年度も「子ども霞が関見学デー」は実施するのか。
- ・実施する予定である。
- ・日建連で公募により決定した「けんせつ小町」という建設業で活躍する女性の愛称は「建設現場へGO！」でも掲載するのか。
- ・今後は、土木の「どぼじょ」だけでなく、「けんせつ小町」も広めていきたいと考えているので、色々な所に掲載させてもらう方が良いと考えている。
- ・色々な所に掲載し、多くの方に閲覧してもらえようようにすることは良いと思う。愛称を活用した次の一手も大事である。

### 2. ロゴマークを活用した「建設現場へGO！」の周知について

（事務局より、資料3について説明後、自由討議を実施）

- ・ロゴマーク展開は、当協議会の本年の事業計画の一つである。「子ども霞が関見学デー」では、1,000個の景品袋にロゴマークをプリントし、団体より提供いただいた景品にも、ロゴマークシールを貼り付け配布するなどして活用している。そうした効果もあって

か、山口県庁で本年10月に作成された業界の魅力を発信するプロモーションビデオでは、タイトル内に当協議会のキャッチコピー「未来をつくる君たちへ」を活用していただいた。認知度については着実に広まってきている。

- ・ロゴマークの周知（バナー広告等）について、各団体の共通使命として実施して欲しい。多くの場面で目にすることが認知につながると思うので、活用についても検討して欲しい。
- ・名刺等に活用したい。団体の傘下会員にも、活用案内について発信して良いのか。
- ・是非、支部や各団体の会員にも発信して頂きたい。
- ・バナー広告の掲載については、色々なパターンを今後作成していくのか。現在、何パターン作成する予定なのか。
- ・資料3に掲載しているとおりの3パターンを予定している。しかし、まだ案のため詳細は今後決めていく。

### 3. 工業高校キャラバンの実施について

（事務局より、資料4について説明後、自由討議を実施）

- ・当初は、工業高校の生徒と保護者を対象としていたが、保護者の参加は平日だと困難な模様。次年度は、本年度の実施状況の反省点を踏まえて実施していきたい。
- ・本年度は試行的ということもあり関東圏内のみの実施だが、次年度以降は地方も実施予定なのか。
- ・今後、要請等があれば、地方での実施も考えられる。地方で実施する際は、地域で同種の取組みをしている団体等と連携し、ノウハウなども提供していきたい。本事業は、若者に建設業の魅力を伝えるという趣旨で実施するものであり、工業高校だけでなく普通高校での実施も視野に入れている。
- ・キャラバンの様子はメディアでも発信されるのか。
- ・取材の可否は各校との最終打ち合わせで確認していくが、メディア等を通じて幅広く発信されることが望ましいと考えている。
- ・人材協を核にするなど、各地域でも同種の取組みを実施した方が良い。
- ・今後、幅広く継続的に実施していくにあたり、どう広めていくかが重要である。

- ・（※参考資料2「建設産業担い手確保・育成コンソーシアム」に関する説明。）  
本コンソーシアムで、地域連携ネットワークの構築にあたり、今後、各団体・職業訓練校等から計15件程度を選定予定。その中で、広報関係については人材協、当協議会とも連携をしていきたい。
- ・工業高校キャラバンの支援も可能か。
- ・可能であると考えている。
- ・今後実施していくにあたり、工業高校からキャラバンの実施依頼がくるようにしていかなければならない。
- ・本年度、実施するにあたり具体的に話す内容を決めておかなければならない。パワーポイント等の資料の作成も必要なのではないか。
- ・行政からは、建設業の役割・魅力と合わせて行政の取組みについて話すことも良いのではないかと考えている。技術者と技能者の方にも、良い点ばかりではなく、悪い点についても話をしてもらおうようお願いをしている。職長（技能者）については、工業高校の生徒と年齢が近い方をお願いしている。
- ・職長（技能者）については、就職支援コンテンツ「18歳のハローワーク」で取材をしている方にもお願いしている。
- ・工業高校キャラバンについては、映像で記録を残し、youtube等動画で配信できると良い。
- ・実施記録を取ることは重要。来年度、同種の協議会等に、この取組みについて紹介するときにも活用できる。
- ・せっかくの学校へ訪問する機会なので、先生に「建設現場へGO!」のコンテンツについて紹介することも重要。授業で活用してくれる可能性もある。
- ・動画は「建設現場へGO!」で公開できたら、問合せ先を振興基金にする等、コーディネートしてあげる機能を設けると良い。
- ・地元紙にも掲載されるようにしていく必要がある。工業高校だけでなく、実施対象範囲を広めていけると良い。小中学生を対象とした広報活動も重要である。国土交通省HPのキッズコーナーとうまく連携できないか。

#### 4. その他

- ・次年度は、「子ども霞が関見学デー」と「工業高校キャラバン」を二つの大きな柱として、その他の事業について検討していきたい。
- ・日建連は主に大学生をターゲットにして現場見学を実施している。大学の事務局に案内ポスター等を発送すると、校内に掲載してくれる。東京よりも地方は、反応が良い。小中学生は大型機械を好む傾向がある。若い世代をターゲットにするために、各学校の校長先生にアプローチし、建設業の印象を残すことも必要である。
- ・実際に建設業で働いている人に質問でき、生の意見を聞ける機会をさらに設けられると良い。交流の場があると、参加した側も印象に残る。また、そういう場を設けることにより、地域ごとの連携が生まれると良い。
- ・工業科や土木科といった学科が減ってきているので、普通科へのアプローチが必要。また、小中学生に対するアプローチ方法も今後は検討した方が良いと考えるが、一方的な方法で伝えるのではなく、交流等といった双方の話を聞けるよう方法で実施した方が良い。
- ・まず「知ってもらう」ことが重要なので、色々な方法で情報を発信していくことが必要である。
- ・情報を発信するためには、マンパワーと記事が必要である。マイナスな反応も確かに心配だが、毎日情報を更新していくことが重要である。また、各関係者から応援してもらう体制が必要である。
- ・当初、当協議会は工業高校を第一のターゲットとしていたが、小中学生をターゲットにすることも検討した方が良い。学校も、職業体験など体験学習の場を探している。
- ・本協議会で、何らかの目標を掲げ、それに向けて検討した方が良い。また、工業高校の先生といった教育機関等を巻き込み、建設産業をアピールしてくれる方（芸能人等）の情報を把握することが大切である。
- ・今後、新しい事業を実施する場合、入職活動に直結するよう形式で実施した方が良い。
- ・災害対応活動に関する建設業の取り組みの発信も重要。また、建設業に関して学生とディスカッションできる機会を設けた方が良い。
- ・求人の仕方を知らない建設企業がある。多くの求人情報があるが、将来を見据えられるような情報がないと目にとまらない。目にとまるような求人票の書き方の情報など

も発信できると良い。

- ・ 外部向けの情報発信が充実してきたので、業界内部向けの情報発信も重要である。例えば、就業規則の作り方や工業高校等への効果的な求人案内の作成方法などが考えられ、求人情報を見て将来を考えられるように記載する必要がある。

以上